

# 日本赤十字社幹部看護師研修センター 令和8年度 研修生募集要項

近年の保健医療福祉環境が大きく変化する社会状況の中では、看護管理者はゆるぎない看護の本質を持ち、柔軟に対応し、変革する力が求められます。

さらに、人間の生命や尊厳に関わる看護管理において、的確性と深い人間への洞察力が求められます。

この教育課程はこれらのことと踏まえ、豊かな人間性を養い、組織の推進者、変革者として活躍できる看護管理者の育成をめざします。

## I. 各教育課程の日程・定員

教育課程	期 間	定員
日本看護協会認定看護管理者 教育課程ファーストレベル	令和8年5月中旬～6月下旬 (この期間内で必須科目105時間受講)	若干名
日本看護協会認定看護管理者 教育課程セカンドレベル	前期：令和8年8月19日～9月29日 <前期終了～後期開始までに実習1日> 後期：令和8年11月2日～12月中旬 (前後期の期間内で必須科目180時間受講)	若干名
日本看護協会認定看護管理者 教育課程サードレベル	A期：令和8年6月3日～6月29日 <A期終了～B期開始までに実習1日> B期：令和8年10月1日～10月下旬 (A期・B期の期間内で必須科目180時間受講)	若干名
保健師助産師看護師実習指導 者講習会(※)	令和8年5月13日～8月25日 のうち180時間	若干名

\*日本看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベルとの同時申込が必須となります。

\*令和8年度研修の講義形態は集合形式とオンライン形式となります。

ファーストレベル：オンライン形式のみとなります。(開講式と閉講の会は参考です。参加は任意です)

セカンドレベル：オンライン形式が主となります。数日集合形式の講義があります。

サードレベル：オンライン形式が主となります。数日集合形式の講義があります。

\*研修は基本的に月曜日～金曜日の9:00～16:30です。しかし、講師等の都合により、土日、祝日の場合もあります。

\*ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベル共に上記期間外に受講可能(無料)な教科目があります。ご希望の方はお問い合わせください。

## II. 日本看護協会認定看護管理者教育課程の研修概要

### 【教育理念】

多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、さまざまな状況に対応できる看護管理者を育成する。教育体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献する。

### ファーストレベル

#### 【教育目的】

看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。

#### 【到達目標】

- 1.ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。
- 2.組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。
- 3.看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。

教科目	単元	教育内容	時間
ヘルスケアシステム論 I	社会保障制度概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度の体系</li> <li>・社会保障制度の関連法規</li> </ul>	15
	保健医療福祉サービスの提供体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療福祉制度の体系</li> <li>・地域包括ケアシステム</li> <li>・地域共生社会</li> </ul>	
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護連携</li> <li>・地域連携における看護職の役割</li> <li>・保健医療福祉関連職種の理解</li> <li>・看護の社会的責務と業務基準</li> <li>・看護関連法規 倫理綱領</li> <li>・看護業務基準</li> </ul>	
組織管理論 I	組織マネジメント概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織マネジメントに関する基礎知識</li> <li>・看護管理の基礎知識</li> </ul>	15
	看護実践における倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践における倫理的課題</li> <li>・倫理的意思決定への支援</li> </ul>	
人材管理 I	労務管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働法規 ・就業規則</li> <li>・健康管理（メンタルヘルス含む）</li> <li>・雇用形態 ・勤務体制</li> <li>・ワークライフバランス</li> <li>・ハラスマント防止</li> </ul>	30
	看護チームのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームマネジメント</li> <li>・看護ケア提供方式</li> <li>・リーダーシップとメンバーシップ</li> <li>・コミュニケーション</li> <li>・ファシリテーション</li> <li>・准看護師への指示と業務</li> <li>・看護補助者の活用</li> </ul>	
	人材育成の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人学習の原理 ・役割理論</li> <li>・動機づけ理論 ・人材育成の方法</li> </ul>	
資源管理 I	経営資源と管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療・介護報酬制度の理解</li> <li>・経営指標の理解</li> <li>・看護活動の経済的効果</li> </ul>	15
	看護実践における情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・看護情報の種類と特徴</li> <li>・情報管理における倫理的課題（情報リテラシー）</li> </ul>	
質管理 I	看護サービスの質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの基本概念</li> <li>・看護サービスの質評価と改善</li> <li>・看護サービスの安全管理</li> <li>・看護サービスと記録</li> </ul>	15
統合演習 I	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。</li> </ul>	15
総時間数			105

セカンドレベル			
【教育目的】 看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。			
【到達目標】 1.組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。 2.保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。			
教科目	単元	教育内容	時間
ヘルスケアシステム論II	社会保障制度の現状と課題	・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	15
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・保健医療福祉サービス提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション等	
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・多職種によるチームケア提供の実際と課題	
組織管理論II	組織マネジメントの実際	・組織分析 ・組織の変革 ・組織の意思決定	30
	看護管理における倫理	・看護管理における倫理的課題 ・看護管理における倫理的意思決定	
人材管理II	人事・労務管理	・人員配置 ・勤務計画 ・ワークライフバランスの推進 ・ストレスマネジメント ・タイムマネジメント ・労働災害とその対策 ・労務管理に関する今日的課題 ・ハラスメント予防策と対応	45
	多職種チームのマネジメント	・人的資源の活用 ・リーダーシップの実際 ・コンフリクトマネジメント ・看護補助者の育成	
	人材を育てるマネジメント	・キャリア開発支援 ・人材育成計画	
資源管理II	経営資源と管理の実際	・医業収支 ・経営指標の活用 ・費用対効果 ・適切な施設環境の整備	15
	看護管理における情報管理	・看護評価、改善のための情報活用	
質管理II	看護サービスの質保証	・クオリティマネジメント 医療・看護におけるクオリティマネジメント	30
	安全管理	・安全管理の実際 ・安全管理教育 ・法令遵守 ・災害対策	
統合演習II	演習	・自部署の組織分析に基づいた実践可能な計画を立案する	45
	実習	・地域連携を理解するための他施設実習を行う （実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする）	
総時間数			180

サードレベル			
【教育目的】			
多様なヘルスケアニーズをもつ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な知識・技術・態度を習得する。			
【到達目標】			
1.保健医療福祉の政策動向を理解し、それらが看護管理に与える影響を考えることができる。			
2.社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために、看護現場の現状を分析し、データ化して提示することができる。			
3.経営管理の視点に立ったマネジメントが展開できる。			
教科目	単元	教育内容	時間
ヘルスケアシステム論III	社会保障制度・政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の将来ビジョン</li> <li>・グローバルな視点から見た保健医療福祉 WHO の活動、国連 SDGs 等</li> </ul>	30
	看護制度・政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護制度の変遷と政策</li> <li>・看護政策に関する審議会・検討会</li> <li>・制度変化に伴う看護管理への影響と対応</li> <li>・看護戦略とパワーの活用</li> <li>・機能団体による政策への影響力</li> </ul>	
	ヘルスケアサービスの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスケアサービスのマーケティング</li> <li>・社会的企業(ソーシャルエンタープライズ)</li> <li>・NGO,NPO のヘルスケアサービス</li> <li>・地域連携を基盤としたヘルスケアサービス</li> <li>・在宅におけるヘルスケアサービス</li> <li>・ヘルスケアサービスのシステム構築</li> <li>・看護事業の開発と起業</li> <li>・テクノロジーの活用</li> </ul>	
組織管理論III	組織デザインと組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織のデザイン</li> <li>・組織間ネットワークのデザイン</li> <li>・地域連携ネットワークのデザイン</li> <li>・ダイバーシティ</li> <li>・組織運営に必要な能力</li> <li>・経営者に求められる役割と必要な能力</li> <li>・組織戦略とパワーの活用</li> <li>・経営者としての成長と熟練</li> </ul>	30
	組織における倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織における倫理的課題</li> <li>・倫理的課題に対する組織的対応</li> </ul>	
人材管理III	社会システムと労務管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃金制度</li> <li>・人事考課</li> <li>・能力評価のためのシステムの構築</li> <li>・労働関係法規の最新の動向</li> <li>・建設的な労使関係の構築</li> <li>・人材フローのマネジメント</li> <li>・ハラスマントの組織的対応</li> </ul>	15
	看護管理者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理者の能力開発、活用</li> </ul>	
資源管理III	経営戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療経営の特徴と課題</li> <li>・医療施設、介護福祉施設、訪問看護ステーション等の経営の特徴と課題</li> <li>・戦略策定</li> </ul>	30
	財務管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務会計</li> <li>・管理会計</li> <li>・資金管理</li> </ul>	
	組織的情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連法規の遵守</li> <li>・地域における情報共有、活用</li> </ul>	
質管理III	経営と質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガバナンスとアカウンタビリティ</li> <li>・医療・看護の質とデータ活用</li> <li>・第三者評価</li> </ul>	30
	組織の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全文化の醸成</li> <li>・医療事故防止のための組織的対策</li> <li>・危機管理</li> </ul>	

統合演習III	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を踏まえ、受講者自身が演習内容を企画し実施する</li> </ul> <p>例 1)自組織について分析し、組織の改善計画を立案する。または、トップとして組織を分析し改善計画を立案する。</p> <p>例 2)保健医療福祉組織や看護の現状について、保健医療福祉に関する統計データを分析し、保健医療福祉サービス提供体制の改善ビジョンを策定する。</p> <p>例 3)保健医療福祉に関する政策提言を行う。</p>	45
	実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の実際を学ぶための実習を受講者自身が企画し実施する</li> </ul> <p>シャドウイング</p>	
総時間数			180

### III. 保健師助産師看護師実習指導者講習会の研修概要

#### 1. 教育目的・教育目標

##### 【教育目的】

看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を習得する。

##### 【教育目標】

- (1) 看護基礎教育における臨地実習の意義を理解し、実習指導者の役割について学ぶ。
- (2) 看護基礎教育についての基礎知識や看護教育者としての基本姿勢を身につける。
- (3) 実習指導者として学習を継続する姿勢を養う。
- (4) 自己の看護実践を振り返り看護に対する認識を深める。

#### 2. 保健師助産師看護師実習指導者講習会の科目および目標

区分	内容	科目	目標・内容	単位数	時間数
基礎分野	教育の基盤	教育原理	教育の本質の基本知識、概念及び必要な理論を学ぶ。 ・教育の本質、目的 ・教育活動の特性	1	15
		教育方法	教育方法の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・講義形態、教育方法及び教材の活用 ・教授一學習過程の理解 等	1	15
		教育心理	人間の発達と學習過程における心理的な特徴についての基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・成長発達に伴う學習心理の理解 ・學習過程における心理 等	1	15
		教育評価	教育評価の基本知識及び必要な理論を学ぶ。 ・教育評価の目的と方法 ・講義、演習、實習評価の方法 等	1	15
専門分野	看護論	看護論	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護についての視野を広げ、自己の看護観を明確にする。 ・看護の機能と役割 ・看護場面と看護観の再構成 ・健康の概念と健康支援 ・倫理的課題とその対応方法 等	1	15
		看護教育課程論	看護師等養成所の各教育課程の概要を学び実習指導につなげる。 ・教育課程の基礎知識 等	1	15
	実習指導の基盤	実習指導方法論 (評価を含む)	実習指導案について理解し、教授方法を学ぶ。 ・実習指導の方法 ・実習評価の意義と方法 等	2	30
		実習指導方法演習	実習指導の展開の実際を学ぶ。 ・実習指導案の作成及び評価(課程別、学年別、専門領域別等) ・実習の評価 等	2	60
合計				10	180

#### IV. 学習方法

1. 講義、グループ演習、個人演習など
2. 受講後、担当講師から提示された課題についてレポートを提出する。

#### V. 修了要件について

1. 日本看護協会認定看護管理者教育課程
  - (1) 各教科目の出席時間が規定の4／5以上であること。
  - (2) 所定科目のレポート評価がC以上(A・B・C・Dの4段階)であること。
2. 保健師助産師看護師実習指導者講習会
  - (1) 規定時間数の4／5以上の出席時間であること。
  - (2) 課題にそった内容のレポート提出であること。

#### VI. 受講要件・受講料（税込）

##### 1. 日本看護協会認定看護管理者教育課程

ファーストレベル	セカンドレベル	サードレベル
以下の要件(1)(2)(3)を満たす者であること。  (1)日本国のかんごしょくめいきょくを有する者。  (2)看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。  (3)管理業務に関心がある者。	以下の要件(1)(2)(3)を満たす者であること。  (1)日本国のかんごしょくめいきょくを有する者。  (2)看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。  (3)認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者。	以下の要件(1)(2)(3)を満たす者であること。  (1)日本国のかんごしょくめいきょくを有する者。  (2)看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。  (3)認定看護管理者教育課程セカンドレベルを修了している者。または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者。
140,000円	190,000円	280,000円

##### 2. 保健師助産師看護師実習指導者講習会

以下の要件(1)(2)(3)を満たすものであること。  (1) 看護師等養成所の実習施設で実習指導者の任にある者。 (2) 将来、(1)の実習施設の実習指導者となる予定にある者。 (3) (1)の養成所で実習指導の任にある者。
80,000円

## VII. 応募について

### 1. 提出書類

#### (1) ファーストレベル

提出書類確認欄	書類および内容
<input type="checkbox"/>	令和8年度 日本看護協会認定看護管理者教育課程・保健師助産師看護師実習指導者講習会（様式1）
<input type="checkbox"/>	勤務証明書（様式2） ※職場が複数箇所になる場合はコピーして使用してください
<input type="checkbox"/>	志望動機：この研修を志望する動機について述べてください。 A4用紙1枚、横書き、200字程度、表紙は不要。 書式：MS明朝、10.5ポイント40字×42行、 余白：上35mm、下30mm、左30mm、右30mm
ファーストレベルに追加して実習指導者講習会の受講を希望される方	
<input type="checkbox"/>	受講要件及び必要書類確認書（様式4）

#### (2) セカンドレベル

ファーストレベルを修了している者	
提出書類確認欄	書類および内容
<input type="checkbox"/>	令和8年度 日本看護協会認定看護管理者教育課程・保健師助産師看護師実習指導者講習会（様式1）
<input type="checkbox"/>	ファーストレベル修了証写し
<input type="checkbox"/>	小論文（詳細は※1参照）

看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者	
提出書類確認欄	書類および内容
<input type="checkbox"/>	令和8年度 日本看護協会認定看護管理者教育課程・保健師助産師看護師実習指導者講習会（様式1）
<input type="checkbox"/>	職位に関する勤務施設長の受講要件証明書（様式3） ※実務経験が通算5年以上あることを上記書類で証明できない場合は様式2も提出
<input type="checkbox"/>	小論文（詳細は※1参照）

#### ※1【小論文のテーマ】

あなたの所属部署の現状と課題を踏まえ、どのような看護サービスを目指したいかについて述べてください。

A4用紙1枚、横書き、1600字以内、表紙は不要。

書式：MS明朝、10.5ポイント40字×42行、

余白：上35mm、下30mm、左30mm、右30mm

構成：1行目にオリジナルタイトル、2行目に氏名、3行目から本文を書いてください。

(3) サードレベル

セカンドレベルを修了している者	
提出書類確認欄	書類および内容
<input type="checkbox"/>	令和8年度 日本看護協会認定看護管理者教育課程・保健師助産師看護師実習指導者講習申込書（様式1）
<input type="checkbox"/>	セカンドレベル修了証写し
<input type="checkbox"/>	小論文（詳細は※2参照）

看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者	
提出書類確認欄	書類および内容
<input type="checkbox"/>	令和8年度 日本看護協会認定看護管理者教育課程・保健師助産師看護師実習指導者講習申込書（様式1）
<input type="checkbox"/>	職位に関する勤務施設長の受講要件証明書（様式3） ※実務経験が通算5年以上あることを上記書類で証明できない場合は様式2も提出
<input type="checkbox"/>	小論文（詳細は※2参照）

※2 【小論文のテーマ】

あなたがこれまで取り組んだ看護管理実践を振り返り、看護管理者としての管理課題について述べてください。

A4用紙1枚、横書き、1600字以内、表紙は不要。

書式：MS明朝、10.5ポイント40字×42行、

余白：上35mm、下30mm、左30mm、右30mm。

構成：1行目にオリジナルタイトル、2行目に氏名、3行目から本文を書いてください。

※記載された個人情報は、当研修センターにおいて適正に管理し同研修に関係する連絡・書類作成のためのみに使用させていただきます。また、提出された書類は返却いたしませんのでご了承ください。個人情報の取り扱いについては、日本赤十字社の個人情報の安全管理マニュアルに基づき、個人情報の取得・利用を適切に行います。

2. 応募先

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字社幹部看護師研修センター

3. 応募締切

教育課程	締切日
① ファーストレベル	
② ファーストレベル +保健師助産師看護師実習指導者講習会	令和7年12月1日から令和7年12月26日 (12月26日消印有効)
③ セカンドレベル	
④ サードレベル	

## VIII. 受講の決定に関するここと

### 1. 受講決定の方法

日本赤十字社幹部看護師研修センター運営委員会において、書類審査を行い決定します。

### 2. 選考基準

(1) 受講要件を満たしていること。

(2) 評定方法

(ア) ファーストレベル

「志望動機」を評価します。

・評価の視点

志望動機が明確でファーストレベルにふさわしいこと

・評定基準

合・否

(イ) セカンドレベル・サードレベル

「小論文」を評価します。

・評価の視点

テーマと内容が一貫している。

論理的な文章構成である。

・評定基準

評定基準を以下のように定め、B 以上を合格とします。定員を超えた場合は、評定基準に従い、上位より合格とします。

A : 80 点以上      B : 60~80 点未満      C : 60 点未満

### 3. 受講者決定通知

応募者の受講可否については文書にて通知します。

### 4. 受講料の納入

受講料については、受講決定通知後にお知らせする方法で、指定の期日までに納入してください。

なお、一度納入された受講料等は、原則返金致しませんのでご了承ください。

## IX. 問い合せ先

日本赤十字社幹部看護師研修センター

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3

電話 03-3499-1709 (月～金曜日 9:00～17:30) FAX 03-3407-1269

メールアドレス [kanbu-ns@jrc.or.jp](mailto:kanbu-ns@jrc.or.jp)